

# 本気出すきっかけ作り

## 聞き書き「ナナメの関係」の育て方

カタリバ代表 今村久美さん

1



千葉県内の高校で、車座になって「カタリバ」の先輩から話を聞く高校生たち＝2010年11月、カタリバ提供

若者の意欲が低いという声をよく聞きます。でも本当に低い人なんていない、それを引き出すきっかけがないんだよなあって、若者側としては悶々としていました。そんな思いから始めたのが「NPOカタリバ」の活動です。

心に小さな火をつけ、本気になるきっかけを作ること。それができるのは、先生や親という

た「タテの関係」ではなく、同級生らの「ヨコの関係」でもない、「ナナメの関係」の先輩たち。ちょっとした年上というのがミソです。友達にはダサくて言えないような悩みも本音も話すことができます。

対象にしているのは、社会と接する機会が少ない高校生です。学校で出前授業「カタリバ」を行い、大学生を中心と

した「キャスト」が部活のこつとや進路、友人関係などの体験談を語ります。視野が広がり、刺激を受けて、自分自身について深く考える時間です。母校の高山西高校や首都圏などの高校計約600校で実施し、高校生たちの背中を押してきました。

マゾンなどのインターネットで購入できると気づきました。地方のものはそうじゃないですよね。人々との密な関係も、山や川といった自然も。でも私は高校生のころ、東京に出たいとばかり思っていました。なんとなく誰かが環境を変えてくれるかもしれない。カタリバを立ち上げたのは、劣等感だらけだった私自身の経験からです。

## 自信と意思 未来担う世代に

私は価値ある人間だと思わない。7割近くの高校生がそう答えた教育財団の統計がある。未来を担う世代が今よりも少し自信と意思を持つことで、社会を元気にしたい。ちょっと年上の人との「ナナメの関係」を広げる活動を通して挑戦を続ける今村久美さんに語ってもらった。

(このシリーズの聞き手は安仁周です)

今村久美 (いまむら・くみ) 1979年、高山市生まれ。高山西高を卒業後、慶応大環境情報学部に進学。在学中の2001年に「NPOカタリバ」を立ち上げ、06年にNPO法人となった。高校生のキャリア学習プログラムの実施と、東日本大震災の被災地で放課後学校「コラボ・スクール」を手がける。7月末に長男を出産、今月から仕事に復帰した。東京都在住。

